

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	天気の良い日は散歩に出かけることで、花や野菜を近所の方から頂いたりしている。敬老会にも参加しており、祭りの時にはおひねりを渡したり、近くの神社には初詣に行っている。ボランティアによる踊り等の訪問があり、今後は地域に住む独居の方にも声をかけることで一緒に楽しみたいと検討している。	
重点項目	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	
	大学の教授が議事進行役で初めての運営推進会議を開催した。地域の代表からは「避難訓練に消防団が協力するので申し出て欲しい」との言葉をいただき、次回3月に避難訓練の指導を受け、一緒に訓練する計画をたてている。今後は定期的で開催することを検討している。会議の場が地域でのグループホームの理解にもつながり、協力、支援を得る良い機会であることから、定期的で開催し、情報交換やアドバイスをもらいながらサービスの質の向上に活かされることを期待したい。	
重点項目	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	区役所には月2回、介護保険に関する手続きに向いたり、分からないことがある時は、随時電話で問い合わせをすることで解決している。また、生活保護関係の職員が立ち寄ってくれたりしている。市町村担当者に入居者の暮らしぶり（ホーム便り）や事業所の情報提供、運営推進会議の報告など訪問の機会をつくるなど、協力関係を築いていくことに期待したい。	×
重点項目	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	独居の入居者が多く、家族会を前向きに検討はしているが難しい状況である。家族は意見や要望がある時は、意見箱ではなく直接職員に話をしてくれる。職員は話しやすい雰囲気づくりを心がけ、家族アンケートからも「入居者第一に考えていることで安心」という声がある。	
重点項目	その他軽減措置要件	評価
	「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	
	運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	×
	運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	×
総合評価		×

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

男性の多い職場であり、職員同士互いを認め合い入居者を一番に考え現状維持を継続し生活歴やアセスメント、モニタリング等で、できることを増やせる介護を目指している。ボランティアによる踊り等の訪問がある時には、地域に住む独居高齢者に声をかけ一緒に楽しむことができるように交流を検討をしている。認知症研修会を行うことで認知に対して知識や対応ケアの向上を目指し、町内会長より認知症に対する協力的体制の話もあり、ホームとして地域の方に認知症について理解を深めてもらえるように働きかけていくことを考えている。

1. 外部評価軽減要件

別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。

運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。

運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。

別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2 外部評価軽減要件 における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	（例示） 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	（例示） 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	（例示） 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	（例示） 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。